

「ラマクリシュナの福音」勉強会 第19回 (2015年7月7日)

・前回の復習☞ (11)頁 シュリー・ラマクリシュナの主な教え

参加者：

前は、タクル (シュリー・ラマクリシュナ) の主な教えについての話でした。

- ・人生の目的は悟り
- ・それ以外に至福はない
- ・神への愛と世俗への無執着が必要
- ・自分の努力と神様の恩寵
- ・家主者は、聖なる交わり、祈り、精神的放棄をおこなう
- ・無執着のためには何が一時的であることを識別すること
- ・神様についての本を読んだり、聞いたりするだけでは十分ではなく、集中して考える、祈る、憧れが必要

マハラージ：それで、最後は？

参加者：神に制限はない。限界をもうけてはならない。

マハラージ：それから？

参加者：信仰の数だけ道がある。

マハラージ：それで終わり？ 最後は？

参加者：人の宗教を批判しない。

マハラージ：それで？ 一番最後のポイントは？

参加者：自分たちの宗教だけが正しいと思わない。

マハラージ：それから？

参加者：自分の誤りを直さず、人の誤りを批判するのは良くない。

マハラージ：OK

・第19回の勉強：『福音』勉強の前に唱えるマントラ

『ラーマクリシュナの福音』（本文）の勉強がいよいよ始まります。
今回はマントラの紹介です。インドで、信者たち、お坊さんたちはいつも『福音』の勉強の前にこのマントラを唱えています。

Gospel Reading - Mantra

Tava kathāmr̥taim̐ tapta jīvanaim̐

Kavi(Chirī)ditaim̐ kalmaṣāpaham̐

Śravana mangalam̐ Śrīmadātataim̐

Bhuvī gṛṇantiyeChūrīda janāh

Śrīmad Bhāgavatam̐

(マハラージの手書き サンスクリット語)

タヴァカタームリタム タプタジーヴァナム
コヴィビリーデータム カルマシャーパナム
シュラヴァナマンガラム シュリーマダータタム
ブヴィグルナートウイエ ブリーダージャーナーハ

単語に分けると、

タヴァ カタ アムリタム
タプタ ジーヴァナム
コヴィ ビ イーデータム
カルマシャ アパナム
シュラヴァナ マンガラム
シュリー マット アータタム
ブヴィ グルナトウイ ブリター ジャナーハ

(CDを聞き)

このCDのような美しいメロディーに合わせて唱えることもできます。

(1) マントラについて

① マントラの出処^{しゅつしよ}

ヴェーダもウパニシャッドもありますが、世界的にもっとも有名な聖典は一千もの言語に翻訳されている『バガヴァッド・ギーター』です。

それと並んでインドでは『シュリーマッド・バーガヴァタム』も有名です。

このマントラは『シュリーマッド・バーガヴァタム』から M さんが選んで引用しました。

② 聖典のタイトル

「シュリー」は尊敬を表す言葉で、意味は「とても偉大」「高い」「神聖」「美しい」。

「マッド」の意味は「ある」。

「シュリーマッド」は「シュリー」が「ある」という意味になります。

『ギーター』にも『バーガヴァタム』にも「シュリーマッド」と付きますね。

(※男性の名前で「シュリーマッド・〇〇さん」、既婚女性の名前で「シュリーモッティ・〇〇さん」(未婚の女性には「クマリ」を使う)という名前は、ちなみにインドの伝統的な名前ですとのこと)

「バガヴァーン」は「偉大な存在」と言う意味です。

偉大な存在には、「一番美しい」「一番知識がある」「一番富を持っている」などの6つの印があり、その6つの印すべてを持つ存在が「バガヴァーン」です。

③ 『シュリーマッド・バガヴァッドギーター』と『シュリーマッド・バーガヴァタム』

『ギーター』には神様バガヴァーンの“教え”が入っています。

『ギーター』は歌えます、唱えます、その意味で「ギーター」といいます。

ソングート、ギートはサンスクリット語で歌という意味です。

ギートからギーターに変化すると教えという意味になります。

『バーガヴァタム』には、神様の“物語”“遊び”“生涯”が入っています。

それだけではなく、神様の“教え”も入っています。

『ギーター』には物語はなく、哲学、教えだけがあり、

『バーガヴァタム』にはたくさんの物語、たくさんのシュリー・クリシュナの物語があります。

④ 著者 (Writer)

『ギーター』は『マハーバーラタ叙事詩』の一部分で、

戦場でのシュリー・クリシュナとアルジュナの会話の場面が『ギーター』です。

書いたのは、とても偉大な聖者ヴェーダ・ヴィヤーサ (Veda Vyāsa) です。

インドでは六つの哲学 (六派哲学 the six darshanas) がありますね。

(パタンジャリの) ヨーガ

(カピラが創始した) サーンキヤ

(ゴータマの) ニヤーヤ

(カナダの) ヴァイシエシカ
(ジャイミニの) プールヴァ・ミーマンサ
そしてもうひとつが
ウツタル・ミーマンサ、それをヴェーダーンタ哲学とっていて、
その哲学者がヴェーダ・ヴィヤーサです。

ヴェーダ・ヴィヤーサは、ヴェーダ、ウパニシャッド、ダルシャナ (哲学)、プウラーナ (物語形式の聖典) の作者でもあるとされています。

こんな逸話があります。

ヴェーダ・ヴィヤーサは哲学をいろいろ著したあと、心が少しドライになりました。偉大な本を作ったのにそれほど満ち足りていなかった。そのとき、「次はシュリー・クリシュナのお遊びについて書いてください。シュリー・クリシュナの遊び、神様の遊びはとても素晴らしくて面白い。それを書けば、あなたの心はドライではなくなるでしょう。心に喜びがあらわれるでしょう」という予言をまきました。それを聞いてヴィヤーサは、『バーガヴァタム』と『プウラーナ』を著しました。

もちろんこれには「同じ名前の別の聖者ではないか？」など、異なる意見もあります。

⑤ 『バーガヴァタム』の物語の内容

『シュリーマッド・バーガヴァタム』はクリシュナの生涯についてのとても面白い物語です。

クリシュナは生後、ヴリンダーヴァンという場所に移り、育てのお母さんとお父さんに養育されました。

一見ふつうの子供に見えたクリシュナでしたが、本当はとても特別で、そこで様々なお遊びをしました。ヴリンダーヴァンでのおもしろい物語はたくさんあります。残酷なカンサ王はクリシュナを殺したかったが、どうしても殺すことができませんでした。

クリシュナの遊びの場所ヴリンダーヴァンには (女性、男性ともに) たくさんの友達がいましたが、クリシュナはある日よその場所に行かなければならなくなりました。友達はみな泣いた。クリシュナもとても彼らを愛していましたが、無執着で、必要ならばすぐ離れて、ある仕事の目的をもってよその場所に行きました。

そのあと、ユディシュテイラと友達になって、また新たな物語が始まって、クルクシェートラの戦いでアルジュナに教えを受けました。

『バーガヴァタム』の中には他の物語も入っています。メインはシュリー・クリシュナですが、小さいけれどもとても素晴らしい物語が『バーガヴァタム』の中にはたくさんあります。もちろんテーマは霊的、スピリチュアリティです。

⑥ なぜMさんは『バーガヴァタム』のマントラを引用したのか

「タヴァ カタームリタム タプタジーヴァナム」のマントラは、シュリー・クリシュナの性質がもっともよく表れている、『バーガヴァタム』の中にあります。

なぜ、Mさんはそのマントラを引用したのでしょうか？

なぜなら、シュリー・ラーマクリシュナについてもシュリー・クリシュナと同じアイデア、同じ話ができるからです。だから同じマントラを使うことができると思いました。

私たちは今までシュリー・ラーマクリシュナの特徴について勉強してきましたね。どうぞ皆さんそれを覚えておいてください。すると、なぜMさんがこのマントラを使ったかっかがわかります。引用した意味と目的がわかる。つまり、「シュリー・クリシュナの生涯とシュリー・ラーマクリシュナの生涯と特徴は一緒」、それを理解できます。

(2) マントラの言葉の意味

・タヴァ「あなたの」

*あなたとはどなた？ 神様。

・カター「教え、話、会話、言葉」

・アームリタム「甘露」

*Mさんは本の名前を「シュリー・シュリー・ラーマクリシュナ・カタームリタム」と決めました。「あなたの話、あなたの教え、あなたの会話はとてもとてもすばらしい甘露です」という意味で。

では誰のための「甘露」でしょうか？ 我々人間のためです。「タブタジーヴァナム」は、我々人間の、苦しみ悲しみの状況をあらわしています。

・タブタ「とても熱があつい。高熱で焼かれるような」

*これはふつうの人の人生を表現した言葉です。焼かれるような高熱を、人生の苦しみ、悲しみにたとえているのです。高熱は病気の兆候ではないですか？ 本心に幸せだったら、体も心も涼しいです。

・ジーヴァナム「人生、命、生活」

・コヴィ「賢い人」(字義は「詩人」「詩 poet」)

・イーディタム「ほめる」

・カルマシャ「罪」

・アパハム「取り除く」

・シュラヴァナ「聞く」

・マンガラム「善、良い、幸福 (welfare)」

・シュリー「美しいもの」

・アートタム「存在しています、広がっています」

・ブヴィグルナートゥイエ「ほめる」

・ブーリダージャーナーハ「寄付をいっぱいあげる人、ほかの人をお世話している人、ほかの人を助けている人」が。

(3) マントラの内容

① タヴァカタームリタ

・タヴァ「あなたの」

・カター「教え、話、会話、言葉」

・アームリタム「甘露」

「タヴァカタームリタ」は「あなたの話、会話、教えはとてもすばらしい甘露です」という意味でしたね。

では「アームリタム」(甘露、ネクター)とは何ですか？

それは素晴らしい味がするという意味だけではない。

「人を不死にさせるもの」それがアームリタです。

「ムリタ」の意味は「死ぬ」。それに接頭辞「ア a」が付くと否定型となり、よって「アームリタ」は「不死」「永遠」という意味になります。

「永遠になる」の意味は、「人はみな死にます。しかし神様のことを聞けば人は永遠になります」。

つまり真理を理解すれば無知が無くなり、すると苦しみ悲しみもなくなります。

「ムリタ（死）」の本当の意味は、からだ的に亡くなるということではない。

大事な理解は、苦しみ・悲しみ・無知は、みな「死」であること。しかしそれは神様のことを聞けば、なくなります。なくなると、それに代わって何が出ます？ 喜びの状態、幸せの状態、無知がなくなって知識の状態、至福の状態——それが「アームリタム（甘露）」です。

また、このような説明もできます。

人間には3つの体——①粗大な体（肉体）②精妙な体（生命エネルギー、感覚、心、記憶、知性）③原因の体（自我）——と魂がありますが（☞第2回福音勉強会も参照）、人が死ぬと、粗大な体がなくなって、精妙な体と原因の体と魂が天国地獄に行き、また別の粗大な体に入って再生します。肉体的な身体だけが新しい。これは粗大な体の死「ムリタ」です。

しかし、精妙な体も死ぬときが来ます。それは人が悟ったとき。悟ったとき、精妙な体はなくなり、そのとき、魂だけが存在し、個人の魂と偉大な魂がひとつに合一する。これは精妙な体の死「ムリタ」です。

何は死なないのか？ 何はなくならないのか？

魂だけです。魂だけではなくならない。神様のことを聞いて、神様のことを理解して、自分の本性を理解すると、何の状態となる？——魂の状態、私の本性の状態。これが、不死、永遠、アームリタムの意味です。

- ・自分と粗大な体を同一すると死はやってくる（ムリタ）。
- ・自分と精妙な体を同一しても死はやってくる（ムリタ）。
- ・しかし自分と魂を同一すれば、死にません（アームリタ）。なぜなら魂は永遠ですから。私と魂は一緒、それが理解できると、私は永遠という考えがあらわれます。アームリタになる。

すなわち、

- ・苦しみ・悲しみがなくなる（死ぬ＝ムリタ）と至福（「アーナンダ」）という甘露^{アームリタ}があらわれます。
- ・無知がなくなる（死ぬ＝ムリタ）と、知識（「チット」）という甘露^{アームリタ}があらわれます。
- ・3つの体がなくなる（死ぬ＝ムリタ）と、魂だけとなり、魂は永遠無限の存在ですから完全な存在（「サット」）となります。

アームリタ（不死）の状態とは「サット・チット・アーナンダ」です。

神様のことを聞けばアームリタを得られる。神様のことを聞けばサッチダーナンダの状態となる。それほど結果を得ます。

② タプタジーヴァナム

- ・タプタ「とても熱があつい。高熱で焼かれるような」
- ・ジーヴァナム「人生、命、生活」

先ほど少し解説しました、我々の人生は、苦しみ悲しみにより高熱状態であると。

ですが考えてみてください、その苦しみ悲しみの状態だからこそ、「神様は素晴らしい」という考えがあらわれるのではないですか？

さらに言えば、平穏な状況のときに神様のことを聞いても心に響かない。

ちょっと想像してください、たとえば“水”。私たちは毎日何回も水を飲んでいますが、その水を、とても甘い、とてもおいしいと感じるのはどんな時でしょうか。

とても暑い日、日なたをえんえんと歩き、大変なのどの渴きのとき、水を飲んだら、きっと「ああ、なんて水は素晴らしいんだ」と感じます。

神様のことも同じです。

人生は本当に大変です。しかし皆さんにその気づきはないので、神様のことを聞いても「素晴らしい」という考えにはならない——これはちょっとおもしろいことです。

大変な経験は私たちにももちろんあります。

ですがおもしろいのはほとんどの人はそれをすぐに忘れてしまうことです。

大変な状況を経験しても、それが少し楽になるとすぐ忘れます。

だから大変とラク、大変とラク、その繰り返し。私たちのほとんどはその状態です。

それを繰り返すばかりで、人生は本当は大変なことばかりだという気づきはありません。

そうした人はどのように生きているのか？

99%は大変ですが、1%は楽しい。

その1%の希望にすがって皆さん人生を生きています。

これがマハー・マーヤーですね。99%は悲しみ苦しみ。そして気づかない。

だからふつうの人は神様のことを聞いても神様は特別な存在だとはあまり思いません。

しかし気づきがある人は探しています。

99%が大変だというその人生の意味を探しています。

「私は苦しみと悲しみばかりの人生は好きではない。この人生を変えたい。もっと楽しみの状態が欲しい」。

そしてそれが可能なのはたったひとつの方法だけ。

「真理のことを考える」「真理のことを勉強する」「永遠のことを集中して考える」。

これで大変なことを超越することができます。

「超越する」という意味はわかりますか？

大変なことは誰にも必ず起こる。

それは信者も、聖者も、例外ではなく、それを取り除くことはできません。

ではどうしたらいいのでしょうか。

これが、(取り除くではなく) **超越**する。

つまり真理のこと、神様のことをもし理解すれば、神様のことを想えれば、神様の話をいっつも考えれば、その大変な状態を超越することができます。これが**幸せの方法**です。

時々誤解があります、信者になり、神様のことを考えれば、大変な状態はすべてなくなると。

そうではありません。

事実は、「すべてのひとに大変な状態は絶対ある。ある人はそれを超越でき、ある人はそれを超越できない」、それだけです。ある人は幸せ。ある人はずっと泣いています。

そして超越するために、**人生についての気づきが必要です。**

今の人生を変えたい、今の生活を変化したい——それに気づくと、タヴァカタームリタ、神様は本当に甘露であると、考えます。そして真理、神様のことを本当に好きになります。そしてこの考えは、苦しみと悲しみの状況のとき、あらわれるのです……。

さて、賢い人はどのような人でしょうか？

賢い人とは人生とはなにかを理解して、自分の毎日のやり方を変化させたいと思う人です。しかしほとんどの人は、無知を持っていて、人生を幻のように生き、それを変化させようなどとは考えてもいません。何回困っても変化しようとしません。

『バガヴァッド・ギーター』『カタ・ウパニシャッド』の中に、「真理を聞く人は本当に少な」く「特別です」とあります。

真理を聞く人は真理を好きになった人です。

好きになったから真理を聞いています。

ですが好きでなかったら聞きたくもないし、真理について聞く場所を避けるし、そういう場所にいてもすぐに出ます。なぜなら間違っ入りましたから（笑い）。

しかし「人生の99%は苦しみ悲しみ」を理解した人は、少なくとも真理を聞きます。聞いて少しずつ理解すると、「神様はとても素晴らしい」という信仰が生まれます。すると幸せがあらわれる——幸せの本当の方法はそれです。もちろん、その次の段階は実践する。最後は悟り。

聞く、それが最初の段階です。そのようにして、賢い人のレベルは少しずつ上がっていきます。そういう人にとっては、神様の言葉は本当に甘露のように素晴らしいのです！

③ コヴィビリーディタム

- ・コヴィ「賢い人」（ふつうの意味は「詩人」「詩 poet）」
- ・イーディタム「ほめる」

これは「神様と神様の言葉をとても褒めている」という意味です。

誰がほめているのですか？

ふつうの人はほめていません。

神様のことをほめるのは、「コヴィ」、聖者、賢者、賢い人です。

そのような方たちが神様のことを、いつも、素晴らしい、素晴らしいとほめています。

ここで、ひとつ、大事な理解は、「言葉」は単なるシンボルだということです。

「コヴィビリーディタム」を字義どおり単に、「神様の言葉」と捉えるのは少し狭いアイデア。

「コヴィビリーディタム」の本当の意味は、「神様の何でも好き」。

たとえば、「シュリー・ラーマクリシュナの言葉だけ好き、シュリー・ラーマクリシュナのやり方、態度、それは好きではない」。それではありません。

「コヴィビリーディタム」の本当の意味は、「シュリー・ラーマクリシュナの何でも好き」。そのとき、本当のアームリタム、「素晴らしい」の意味となる。

『福音』は好き、しかし、シュリー・ラーマクリシュナのやり方、考え方、態度はあまり好きではない——それは矛盾です。

それではアームリタムの感じが出ない。

イメージは、全体、人格の全部。言葉だけではなく、何でも好き。歩き、話し、座る、歌、踊り、全部。全部好きになります。それが本当の好きの状態。

たとえば fall in love (恋に落ちる) のとき。その時期は、恋人に否定的な姿を見ても、あまり気にしません。恋人のすべてが好きです。最初は何でも好き。ただ、人間の恋人同士の関係は永遠ではない。あとで、嫌いになる、その問題がある。

しかし、神様と神様の化身はそうではない。

「人間を愛す」と「神様を愛す」には大きな違いがあります。

「人間を愛す」は、最初とても好きになって、だんだんだんだん嫌いなことが入ってくる。

「神様を愛す」は、最初はそんなに好きではないという状態から入って、好き、もっと好き、一番好き、一秒も離れることができない、その状態になります。神様から一秒でも離れたら心が痛くなる。

人間の愛と神様の愛はそれほど違います。

そしてそこまで上げないと、まだまだまだまだ。

「神の信者」の理想的な状態はその状態です。

ちょっとだけ好き、ここだけ好き、ではない。すべてが好きです。

シュリー・ラーマクリシュナはこんなコメントをしました、「もし私を好きになるなら、私の何でも好きにならないといけません」。

ある部分だけ好き、ある部分は好きではない——それは本当の意味での信者ではない。

イエス、お釈迦様の信者も同じこと。

理想的な愛とは100%の愛。

もし本当の愛をしたいなら、神様を愛してください。

なぜなら、人間を愛しても100パーセントで愛することはできないですから。いえ、もし、人間の中に神様を見て愛せばオーケーです、しかし、そうではないと問題が生じます。

理想的な愛のひとつに母親と子どもの関係がありますね。たとえばその愛について考えてみると、子どもが小さいときと、大人になってからを比べてお母さんの愛のレベルは変化してませんか？ お母さんは結婚した息子にときどき文句を言います、「最近あなた、あまり私の面倒を見ないわねえ」。その文句が愛の現象を示していませんか？

神様は反対です。

もっと、もっと、もっと愛が増えるうえ、その愛に限度はない。

なぜなら神様は永遠ですから。ですから神様の愛も永遠です。

だから、If you love, love God. Because there is no limit of love of God.

みな誰でも「愛したい、愛されたい」という基本的な欲求 (urge) がある。

そしてもしあなたが、「愛したい、愛されたい」なら、一番の愛の対象は神様。
このことを理解したら、「コヴィビリーディタム」、「賢者たちは神様、神様の言葉、神様の愛、神様のすべてを、とてもとてもほめています」、その意味がわかりますね。

④ カルマシャーパハム

- ・カルマシャ 「罪」
- ・アパハム 「取り除く」

「カルマシャーパハム」は「カタームリタム」の結果のひとつです。
意味は「すべての罪がなくなります」。

汚れた水たまりも、太陽の光によって乾かされればなくなります。
汚れた水は、罪のシンボルです。

それと同じように、神様のことを聞けば、自分の罪はすべてなくなります。
それだけでなく、もっときれいになります。
きれいになれば、自然に罪はなくなります。
罪を無くす別の方法はない。
もっともっと神様のことを考え、神様を愛します。
すると自然に罪はなくなる。
これがバクティ・ヨーガのとても素晴らしいやり方です。

ギャーナ・ヨーガ、ラージャ・ヨーガで心をきれいにする方法——ヤマの実践、ニヤマの実践——は、バクティ・ヨーガにはない。バクティのやり方はひとつ。神様を愛してください。愛しますと自然で罪はすべてなくなります。

どうしてなくなるのでしょうか？

我々が罪を犯す原因は、自分や自分の家族・親類を愛しているから。
悪いことを考え、悪おこないをする原因は、自分への愛、家族・親類への愛です。
つまり、「体と心が私です。私は魂ではない」という考えによって、怒り、うぬぼれ、憎しみ、嫉妬、肉欲があらわれる。そしてギャーナ・ヨーガ、ラージャ・ヨーガではそれをなくすために、ヤマ、ニヤマの訓練をしなさいと言います。

しかし、神様への愛が増えれば、自分と家族への愛が自然に減るのです。
今、神様への愛が少ないですから、自分と自分の家族への愛が大きいですから、それでいろいろ罪を犯します。
しかし、神様への愛がもっと増えれば、自分への愛は自然に減っていきます。
減っていますから、悪い考え、悪い仕事できない。
悪い仕事、悪い考えの源は、自分に愛、自分の親戚に愛ですから。

それでは前の罪、前の悪いカルマはどうしますか？ それがある限り、また大変な状態になってしまいます。

そのとき、神様の恩寵です。神様の恩寵で前の罪、前のカルマは無くなります。

ホーリー・マザーはなんと言っていますか？

「以前の悪いカルマの結果で大きなケガをする可能性がありました。けれども神様の恩寵によって小さな傷だけで済むでしょう」。

「カルマシャーパム」とは「すべての罪はなくなります、神様の言葉で罪は取り除かれます」。

しかし、言葉だけ聞いても、永遠にはなれないし、罪は取り除かれませんが。

「言葉」と「言葉を聞く」、「言葉を好きになる」、「言葉に従う」、「実践」、すべて入っています。

(『福音』勉強会第19回、以上)